

# 水稻「風さやか」 高品質良食味栽培指針(平成30年版)

上田農業改良普及センター・JA信州うへだ

	11月		3月		4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
	上旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬		
作業体系	堆肥施用 耕起		塩水選 種子消毒 浸種 催芽 播種			育苗管理(30日) 基肥施用 入水 荒代 植代			田植え 初中期除草剤散布			生育診断 追肥 籾の充実			出穂期観察			落水 収穫判定			収穫				
水管理			入水			浅水			中干			間断灌水 深水			間断灌水			落水							
栽培管理	<p>「風さやか」の特徴：長野県農業試験場育成。 コシヒカリに比べ、出穂が4日、成熟期で7日程度遅く、倒伏・いもち病に強く、収量性が良い。過度な籾数増加をもたらす施肥は登熟歩合の低下や白未熟粒の増加及び食味の低下につながるのを避ける。</p> <p>～良食味・高品質米を目指して～</p> <p>1 基肥施用 多肥にすると、無効分げつ、くず米、未熟粒が増加する傾向にあるので、過剰な施肥はしないこと。 肥料名：いね元気 40～50kg/10a (N 4.8kg～6kg/10a 程度) ☆堆肥を施用する場合、春施用すると、ガス湧きによる生育阻害が生じるので、<u>基本的に前年の秋に施用し、耕起、分解を促進する。</u> ☆その他の有機物を施用する場合は普及センター・JAへ相談する。</p> <p>2 播種・育苗管理 ・一般の品種と同様に行う。</p> <p>3 田植え ・時期：5月下旬 遅れると適正穂数の確保が難しくなる。また、未熟粒の発生が多くなるので注意する。 ・適正標高：600m以下 ・一般栽培に準じ、60株/坪植え、3～4本植えとする。コシヒカリより穂数が少ないので、極端な疎植(50株未満)は避ける。</p> <p>4 病虫害防除 (1) 苗箱施薬：殺菌殺虫剤を必ず処理する。</p> <p>(2) いもち病防除：葉いもちの進展が見られた場合は、治療剤を散布する。 ☆多発の恐れがある場合は、薬剤による予防に努めること。</p> <p>(3) イネツトムシ防除：苗箱剤等でチョウ目害虫に効果がある剤を散布する。 ☆晩植や葉色の濃い場合は、特に注意すること。</p> <p>5 水管理 ・田植え後ガス湧きが多い場合は、軽く干して酸素供給を行う。 ・幼穂形成期以降、低温時は深水管理を行う。</p> <p>6 中干し 無効分げつや遅れ穂の増加を防ぐため、有効茎数(2枚以上の葉をもつ分げつ)が22～23本程度になったら、コシヒカリより長めの中干しをかける(約10日)。</p> <p>7 追肥 ・最高分げつ期(7月上旬)に生育状況を観察し、施肥時期と量を検討する。 ・基本施肥量と時期 穂肥：NKC201 10kg/10a (N2kg) 幼穂形成期(幼穂長10mm)</p> <p>8 収穫適期の判定 ・積算気温 1,100℃以上とする。 ・帯緑色籾歩合 10～5%で収穫する。 ・刈取時期、搬入についてはライスセンターへ問い合わせること。</p> <p>【目標生育モデル】</p> $60 \text{ 株植え (約18本/m}^2) \times 1 \text{ 株穂数 (約22本)} \Rightarrow 1 \text{ m}^2 \text{ 穂数 (400本)} \times 1 \text{ 穂籾数 (93粒)}$ $\Rightarrow \text{目標 } 1 \text{ m}^2 \text{ 粒数 (約37,000粒)} \times \text{登熟歩合 } 85\% \times \text{千粒重 (22.4g)} \Rightarrow \text{目標単収(1.85mm) (700kg/10a)}$																								

